

今年度の調査研究では、ITS 専用狭域通信（DSRC）を利用したクレジットカード決済を実現する上で必要となる標準化に取り組んだ。以下、今年度の検討項目と成果の概要をまとめる。

1) DSRC 応用決済サービスシーンの検討

DSRC 応用決済サービスはサービスの種類・取引条件・決済金額および利用シーンによりさまざまな形態が考えられ、それに応じて実施要件が異なる。実現性の高いものから順次普及するとの考え方から利用シーンを3つのステップに分類し、今年度はステップ1について具体的な検討を行った。

- ・ステップ1： 自動車単位での自動車に対するサービス課金
（駐車料金・洗車料金など）
- ・ステップ2： 自動車単位での自動車以外に対するサービス課金
（ドライブスルーでの販売・ガソリン給油など）
- ・ステップ3： サービスそのものに対する課金
（情報配信サービスなど）

2) DSRC 応用決済サービスにおける IC クレジット取引の要件

一般的な IC クレジット取引の要件と DSRC 応用決済サービスの条件とを照らし合わせ、金額表示・本人確認・オーソリゼーション・支払い意思確認・売上票・利用明細の項目について要件整理を行った。また、路側機・車載器それぞれについて、端末機認定に必要なステップおよび認定上の注意事項について、ブランド共通の EMV 認定・ブランド毎の確認事項について整理した。

3) DSRC 応用決済サービスのシステム要件

DSRC 応用決済サービスにおける IC クレジット取引の要件を踏まえ、DSRC 応用決済サービスを実現するためのシステム要件について、必要な通信手順・セキュリティ要件・路側システムの必須条件・車載器の必須条件を抽出した。

4) DSRC 通信部のセキュリティ要件

DSRC 応用決済サービスは、一般的な IC クレジット取引と比較して端末機の形態が大きく異なり、クレジットカード決済にかかわる重要な情報が通信路を流れるため、DSRC 通信部のセキュリティ確保は重要である。そこで、DSRC 応用決済サービスにおける IC クレジット取引の要件および DSRC 応用決済サービスのシステム要件を踏まえた上で、DSRC 通信部に要求されるセキュリティ要件を整理し、評価を行った。

今年度は、ターゲットとして3つのセキュリティモデルを抽出、評価手順・評価項目の検討、および机上検討を行った。その結果、いずれのセキュリティモデルも実用に供するためには根本的な問題はないものの、いくつかの検討課題項目があることが判明した。